

研修報告書No.8

所 属：三豊総合病院 卒後臨床研修センター
氏 名：2年目研修医 山田 大輔
研修先：医療法人聖真会 渭南病院
特定医療法人長生会 大井田病院

・県外在住医師から見た高知の地域医療の状況

渭南病院と大井田病院で地域研修をさせて頂きました。4週間という短い期間でしたが、高知県で地域研修をさせて頂き、高知における地域医療の特徴的な点をいくつか感じました。1つに当然ながら地域全体の高齢化があります。平成25年の高知県の高齢化率は32.2%と全国2位に位置しており、高齢者の増加による地域医療の負担の増加があります。今回の地域研修でも多数の介護施設を見学しましたが、医師を始めとする医療者の数に対して高齢者の数が多く、1人の医師の負担が大きいというのが印象的でした。2つ目に県の面積の広さが高知県の地域医療における特徴の一つかと思います。往診を見学した際に、一つの病院がカバーする医療圏がかなり広く、通院自体が困難であるために往診をせざるを得ない患者様を多く見ました。また転院搬送においても、病院間の距離が遠く、転院に要する時間が多いことも医療スタッフ不足にさらなる負担をかけていると思います。

これらの問題がある中で、高知県内の病院で電子カルテの情報を共有できるシステムを構築中であるという話を研修中に伺いました。上記の通り、病院間の距離が遠く、正確な情報の把握が困難なことがある高齢者が多い高知県において、このシステムは非常に有効であると思います。

少子高齢化が進行しつつある日本において、現在の高知県は10年後の日本の超高齢化社会を反映しており、高知県で地域医療を行うことは、これからの地域医療を考える上でも重要だと思います。高知県の地域医療は、今後全国で増々広がっていく地域医療体制のモデルケースとして、電子カルテの共有化や地域医療スタッフの育成法などを日本全国に発信していけると思います。

・研修内容に対する意見

退院後の住宅評価や往診は、普段の研修では経験できないことばかりでとても新鮮でした。訪問看護の看護師の方やケアマネジャーの方は驚くほど患者様について詳細に把握されており、仕事に対する熱意が伝わりました。また高齢独居の患者様が、如何に内服のコンプライアンスや、退院後の通院を維持することが難しいかを知りました。日常の研修では、入院患者様を退院できるようにすることばかりを考えており、退院後の通院や内服の管理まで考えが及んでいなかったと実感させられました。さらに地域包括支援センターの

研修では「退院後に患者さんがどんな生活をするか想像してから退院の指示をしてほしい。医師が退院後の患者さんの生活を知るとはとても重要だと思います。」と言われたケアマネジャーの方の言葉がとても印象的でした。地域研修において、このような他職種の業務を経験できたことも自分の糧となったのではないかと思います。

・今回の臨床研修で得たと考えられるもの

私は来年度から関西圏で救命医として就職することが決定しており、地域医療とはかけ離れた業務を行うこととなります。しかしながらこれからの高齢化社会において、都会と言えど今回の研修で出会ったような、内服コンプライアンスが不良な独居の患者様や往診が必要な通院困難な患者様とは必ず出会います。その時に今回の経験を活かし、入院時だけでなく、退院後のことまで考えて対応することで、確実に今まで以上に患者様に寄り添った治療が提供できると思います。また他職種の業務を経験したことで医療者間の連携も今まで以上にスムーズにとれるようになったことは今回の研修の大きな収穫だったと思います。